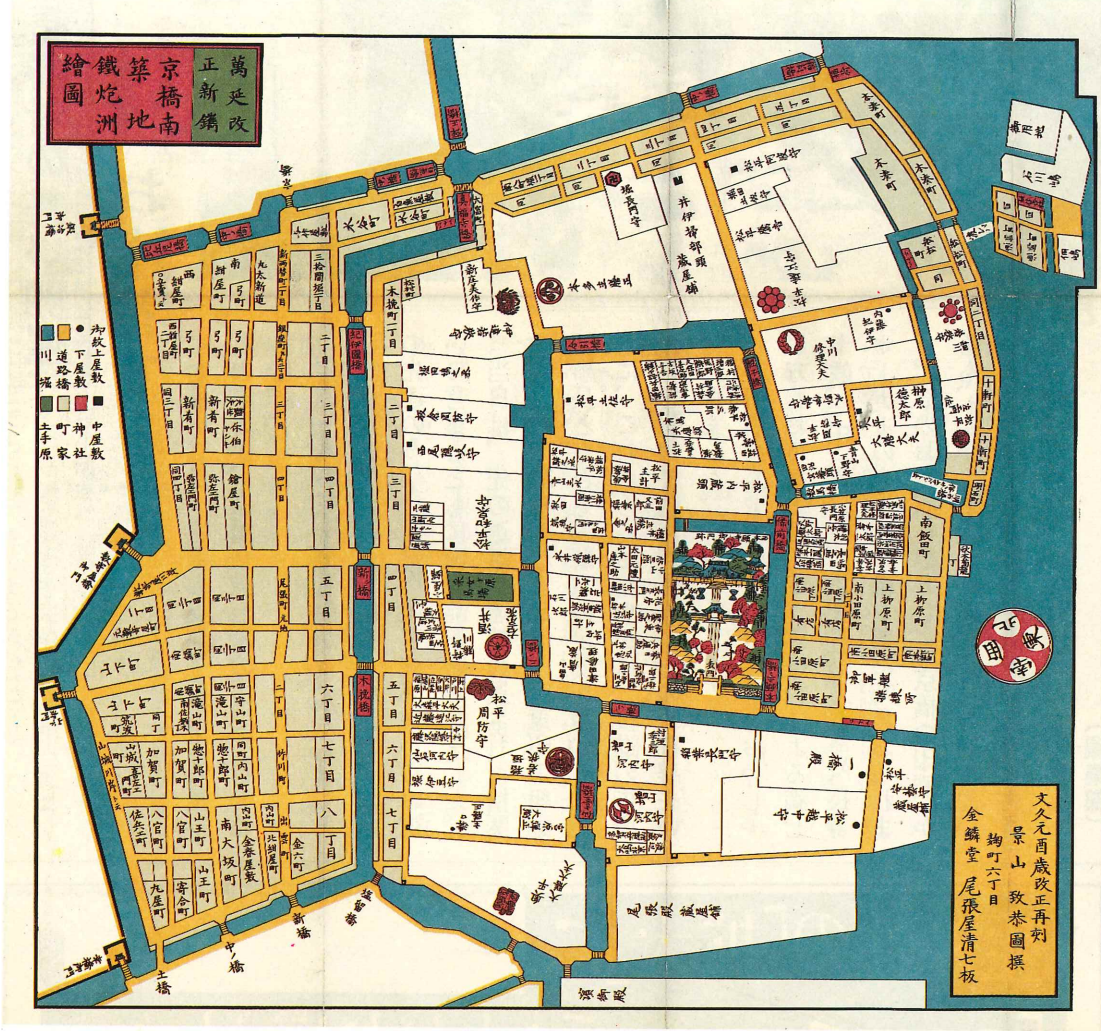


京橋の印刷

8月10日1983・No.49

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

編集 新保義人
中村憲吉



表紙のことば

築地地区 土井 嘉光
土井印刷機

文久元年(二八六)。今を遡ること一三〇年余の京橋です。現在の京橋は高速道路に囲まれておりますが、当時のご覧のように堀に囲まれ、多分堀端の木立が水面に影をうつし、季節季節の美しさを楽しませてくれたことでしょう。地図から想像しますと、現在の私の会社は松平土佐守の中屋敷の一隅、余り儲からないのもしや当時の鬼門に当る所ではないかと勘繰っております。新社屋をたてられた新富の日本精版さんは本多主膳正上屋敷跡のようです。新築工事中小判発見という楽しいニュースをきけなかったたので金蔵跡?ではなかったようです。江戸城に出仕する殿様方ほどのあたりを通ってどの橋を渡られたのか、出仕途上での挨拶はお天気のことか景気のことか。

地図一枚を前にしていろいろと楽しんでおります。



京橋支部 長寿者の集い開催

ます
ます
ます
お達者で……

七月十二日、恒例の支部主催による長寿者の集いが、京橋会館七階の広間で行われました。

定刻三時の三十分も前から、かくしゃくとしたお元気な足どりで集まられた二十六名の先達のみなさま方に、児玉支部長からお祝いの言葉とともに記念品が贈られました。

当日は、先の選挙で連続当選された横関中央区長も駆けつけられ、山岡東印工組副理事長ともども先輩方の足跡を讃えるとともに、これからお健やかに、後進の指導に心を配っていただきたいとお祝辞をいただきました。

長寿者なんて言わないでくれとおっしゃる方もおられますが、支部規約による満七十歳、今年は大正二年生まれの方も含め、長寿オーナーの方々が京橋支部に76名おられます。そのお名前を掲載して「京橋の印刷」からも、心からお祝いを申し上げたいと思います。なお、その中から五人の方々に古き佳き時代を綴っていただきました。

(編集部)

生産性の「拡大」に 「コニスーパートン」がお応えします。

毎時1万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5色機



小森印刷機械株式会社

本 社 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号 〒130 ☎東京 (624)7161番(大代表)

すいせんのことば 小森印刷機械さんとは30数年のお付合をして居りますが故障が少なく使い易いので助かります。先日リスロン40シリーズを見学しましたが大変な努力と研究をされているので力強く感じました。次期変更の予定機もそれ的を絞って居ります。

湊地区 加賀美印刷梯 加賀美 博

特集



「旅」二題

一、水窪の山

静岡県の西北隅に水窪という町がある。十四、五年前の五月、私達夫妻は其処に住む知人を訪ねた。同伴として一人、当時国外に赴任した四男の嫁も行を共にした。

豊橋から飯田線にのり豊川を過ぎ、やがて鳥居強工門の史実に其の名をのこす長篠駅に差しかゝるあたりから此の路線は上り勾配となり、飯田までの間にトンネル百余を数えるという沿線は、美しい渓谷を走るので、窓外の景色は幾度か来ているのに少しも私の目をあきさせない。一時間二十分で電車は「中部天竜駅」に着く、此処で佐久間ダムを見学する団体客が降り車は次のやゝ長いトンネルの暗を抜けると間もなく水窪に着く。

高いホームから眺めると山懐ろに抱かれて、駅の直下を流れる水窪川の向うに街は展開する。その姿は恰うど児童の絵本などに見る山間の町の鳥瞰図のようで、山すそ一杯に拡がって居るかなりの町である。小駅ながらタクシーが一台待っていた。訪ねる家の名を告げると直ぐOK、車は支流の一本の谷間に沿ってうねうね途を上る。暫らくして現われたのが目的地の「竜戸」

新川地区 荒井政吉 82才

(株式会社 荒井美術)

の部落で、見るとV字形の両の山腹に部落の家は相対して離かり、それが如何にも程よく深緑の山肌にちりばめたようである。

私達の車は此処で急坂に道を取り一気に上り切つてK家の前に出た。車の音に早くも門に出て迎えていたのは此の家の若い嫁御のN子さん、私達を迎える笑顔には今日の突然の訪問客に、かくし切れぬ欣こびが窺えて此方も又嬉しい。

K家の座敷に通されると私は開け放されて黒光りする旧家の雰囲気合せるため呼吸を整えた。そして始めてお目にかゝる御両親に挨拶をし些やかな手土産を差し上げた。その時傍らに坐して居たN子さんは、それを手に受けると直ちに「御先祖様に」と一言して立ち上り、次の仏間に行き仏壇の前にそれを供えた。私は一見簡単な此の間の仕ぐさに注視しつゝ、ひそかに感動を受けたのである。

東京の世田谷生れのN子さんは当年二十才でその年の一月に山林を以って先祖伝来の家業とする此の家に嫁した。平素活発な近代的女性のタイプ、学卒すれば何年かは若い女性として当然に市民生活を味わう心であつてもと思われるのに、この結婚にと心を定めるには相当に考えたことであらう。そのようにかねて思っていた

新しいロゴマークでリフレッシュ。

写真植字

モリカ

大阪本社=大阪市浪速区敷津東2-6-25 〒556 ☎06-649-2151
東京支店=東京都新宿区下宮比町15-5 〒162 ☎03-267-1231
名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・高松・鹿児島・明石・横浜

株式会社 大和屋洋紙店

本店/東京都中央区新富1-15-3 〒104 ☎03 (551)8281
中野支店/東京都中野区沼袋1-19-15 〒165 ☎03 (387)5401

すいせんのことば 王子製紙系列の名門企業だけあって、誠実な営業姿勢は他に類を見ない。信用できる会社だと確信しております。

新富地区 大東印刷工芸(株) 花崎実

すいせんのことば サービスに徹し、技術開発に真摯に取り組む経営理念はすばらしい。今後の限りなきチャレンジを期待したい。

新富地区 正進社印刷(株) 高橋茂

私も、既に御先祖様を念頭にするいまの彼女の自然な態度、それは一体何時の頃から出来たのか、不思議な思いで此の女性を見直したのである。ドライの横行する都会を数時間まえに離れて、いまこの家を訪れこうした感想にしたるといふのも之れも現代を識る一面であろうかなど考えた。

その夜は此の家の御主人K氏から水窪についての四方山の話を書いた。

『此の「竜戸」の部落の人々は山林を命の場として今日まで家業と家系を守るために努力を続けて来た。』『何れも旧家で氏名は過去にあった古都の地名が用いられているのでその年代が分かる。』『この水窪の山林というのは東京都の広さと同じである。』『現今伐採している樹木は先代、先々代の植樹したもので、自分の代に植える苗木は孫の時代に役立つためのものである。』など、

『いま自分達は孫の代のために植樹し、それを育て、いゝ』という言葉に、私は強く感銘を受けた。そして思わず仏壇の長押にづらりと掲げている正装した先祖の肖像額を見上げたが、と同時に昼間N子さんが言われた「御先祖様」の言葉もこゝではっきり腑に落ちたのである。

翌朝、目が覚めると私は直ぐ戸外に出で、朝靄の濃い崖道を足をすくませて歩いた。溪谷にかゝる「竜戸」の家々は、近寄って見れば、どれも険しい位置に建てられていた。奥の知れない山の深さ、流れる霧のまにまに見上ぐる峯。

「水窪の山は久遠、「竜戸」の部落は永劫に、私はこう口ずさんだことである。

二、奈良回顧

『東京の近くに奈良があったらなァと、交通便利となった今でも、私は思います。東京には、近くに鎌倉があり、その鎌倉も探ぐればきり無い程見るところも多く、そして近くに海もあり秀れたところも充分にあります。それであるのに、私が奈良に興味を惹かれるのは、単に史実や景勝の上から鎌倉と比較してのことではありません。奈良には所謂、奈良・飛鳥時代という特殊な時期が、万葉の時代とセットになっているのです。

もう四十二、三年も前のことになりましたが、私は息子たちの夏休みというと連れだってはこの地をおとすれたものであります。あるときは、万葉評釈を所持して行った事もありました。そのころは観光客というものが極めて少くて、大和地方の南北どこへ行っても、都市をはなれた場所にある文化財は、楽々と思いのまゝに見ることが出来ました。

大和の南の、ある丘を歩いて下りの細道にかかりました。そのとき前面が大きく開けて明るい畑地が見えると、向う真正面に、でんと構えた御陵が飛び込むように目に入りました。堀をめぐらすそのたたずまいの良さ、威圧されるような黒々とした森の立派さ、今も印象にのこっています。目を移すと、うすすらとした遠い山波を背景に、昔の大極殿の趾の名ごりであると

いう、一本の松の木がありました。そのとき、私ははつきり見た様に思いました。大きな屋根が立ち並ぶ宮殿、都大路を織なす、雅な姿の宮廷貴族や帰化人たちの、その行きこうさまを。絵巻物や芝居のかきわりに、さては菊人形などで見た人々の姿を。そしてその一本の松は、その添景として生きていました。

たちばな寺のあたりであったと思います。小川がわきを流れている、人通りの消えた畑道の四つ角にさしかかったとき、一人の美しい若い婦人が、こちらに向って来るのに出会い、やがて私はその人とすれ違いました。そのときです。万葉集の中の、恋仇きの二人の皇子のうちの一人が女性をよび出し、道ばたでの密会を愉しんだときの歌を、ふと、思い出したのです。私はこのとき異様な、昂奮に似たものを感じました。

香久山は 畝傍を愛しと 耳成と
相争ひき 神代より かくなるらし

万葉集の歌詞四五〇〇首には、恋歌・賛歌・挽歌などに人々の歓喜、哀愁、苦悩などがよくうったえられ、土の匂いにしみて、歴史がそのために一層色を濃くしているのです。その万葉の時代も決して泰平であったという訳ではなく、大和の朝廷貴族達は苦難と緊張の連続、政変と肉親の間の烈しい争いを繰り返してきましたがその苦難の一五〇年間において、幾くたびかの大がかりな遣唐使の派遣、あま多の異国人の採用その帰化など、ひたすら宗教・学門・政治・技術・芸術の吸収に努めたことが、偉業達成の上に役立った訳です。

特集



「明治・大正・昭和の思い出」

この貴い所産には、この地方二〇万人(当時の日本の推定総人口六五〇万人とか謂われますが)の人々が関わりをもち、朝廷を先達とする信仰の影響下に、かくも立派な仕事を成し上げたもので、洋の東西を問わず「人の念力、あな恐ろし」というところでありましょう。

父のこと

私の父は滋賀県近江の生まれで、十五歳の時長崎市の穂積家の書生として住込み、独学で弁護士資格を得、上京して株式会社福岡商店の顧問弁護士となった。後半、福岡商店の解散後、お得意先を引継いで印刷業を長崎町(現在の新川)で開業した。明治三十六年頃と思う。

設備した活版印刷機は手びき四台とロール一台であった。電気のない時代なので全部人手で動かした。手びきは二人がかりで、一人が刷って一人がインキつけをする。ロール(菊判)は三人がかりで、紙さしと紙とりの他に機械を動かす大男。この人がハンドルを握って三回まわし、惰力を利用して手を離して休む。この繰返しで、見ているだけで疲れる様な気がする。その後、改良して足踏みロールが出るようになった。

乍ら、人々のいのちの燃焼により豊かな文化は開かれるに至ったのでありますが、この時期に生れた、おびただしい古代文化の遺産は、幾くたびかの怨火により失われましたけれども、なお今日現存するものがあるということは、日本の誇りであり、これこそ有難やといわねばなりません。

銀座地区 小西大介 83才

(有限会社 小西商店印刷所)

た。当時は、活版印刷工場は珍しいものであった。従業員は工場十五名、店員七名で、仕事は朝七時から六時まで、夜業はなかった。

夜は石油ランプであった。夕刻になるとホヤ掃除をやったものである。子供だった私の小さな手が便利なのであった。

街にポツンとガス灯が立った。夕刻になると、瓦斯会社のハッピーを着た男が点火棒をかついで走り、灯をつけて廻ったものである。自宅にも二階の広間にガス灯がひけた。その明るさに、びっくりしたものだ。ランプの十倍以上も光り輝いて、まばゆいくらいであった。表から見ても窓が真白くみえた。

ところがガス灯にも欠点があった。「ホクチ」といって、ガス灯の光の出る処で、ホクチを作るとは、布製の袋を燃やして卵型の灰型を作った、これに点火するのである。灰であるからす

ぐこわれてしまうのである。後に電灯が出るに及んで、瓦斯灯は次第に姿を消していった。

明治四十四年五月、父が死亡したあと南町町に移転し、店員の藤井に店を任せ従来のお得意先を守って営業を続け、私は神田の丸二商店に五年間奉公をした。顧りみて、この五年は実に大切な人生経験と思っている。人生の鍛練を受けたのである。有難いことだと思っている。

大正九年、藤井が病死し、独立開業した。

関東大震災

当時の家族は私、二十三歳と母と弟二人、雄之祐(四十八年死亡)、昌四郎(センビ堂印刷社長)、中村謹吾(日本精版印刷社長) 外三名の計八名であった。

ラジオもない時代で、報道機関としては新聞月刊雑誌などで、突発事故があると新聞社が無料で号外を発行して、たちん坊に渡すと待っていたように腰に鈴の音を鳴らして、一枚五厘で売って走り廻ったものである。

道路も舗装されたところはなく、銀座の人道に煉瓦を敷いたことがあって、煉瓦地などと有名になったが、具合が悪く長続きはしなかった。銀座通りで早く走るものといえば、電車か人力車位のもので、自動車、馬車などは殆んど走らなかつた。他に馬力、牛車荷を積んで通る。馬が小便して地が掘れる、こんな状況であった。

大正十二年九月一日、前夜からの雨は八時頃

に止んだが、道がぬかっていたので足駄で出かけた。写真屋の暗室を借りることになっていたので、引伸しを五枚位完成して暗室を出、店の上り框に腰をかけていると、框の下から、トントントンと小さな金槌で打つように感じた。とたんに、これは本物だと思ったとき、店の明り取り窓のすり硝子を破って、ガラガラッと瓦が土間に落ちてきた。グラグラと揺れるのと殆ど同時である。夢中で表通りへ飛び出した。ウィンドウの硝子がパンパンと破れて飛んだ。この間、五秒とたっていない。

生きた心地もなく亀井橋へ走った。橋の上には二十人位の人がいて、みんな踊っている様に跳ねたり飛んだりしている。揺れが烈しいので止むを得ずそうなるのである。そのうち、ボカンと大きな音がして橋が落ちこんだ。みんな悲鳴をあげて往来へ移った。往来と橋の間が割れていた。川越しに見える築地警察の練武場（柔・剣道の道場）の平家建が左右に烈しく揺れている。見ていると、びしゃっと潰れて、たいらになってしまった。道路を見ると、西から東の方へ波を打っているように前方へ走ってゆく。とても信じられないことが現実起きていているのである。

またボカンと大きな音がして地割れが走る、護岸の為の石垣が川にくずれ落ちる、そこにある散水車が川に落ちて流れて行く、警察の前の通りの電信柱がパタッと倒れる、次に又一本倒れる、支えが無くなって次々に倒れてゆく。家々からつちばこりが吹き出してくる、町中

は煙った様に見える、いつまでたってもゆれは止まらない。家々から土煙が吹き出しているのを見てみると此の世の終りがきたのかと、人心地がなかった。恐ろしい限りであった。川の面には三角波がたっていた。だんだんゆれが小さくなり、やがて静まった。

ゆれた時間は十二、三分ではなかっただろうか、或いは二十分もゆれていたか。自宅は家中壁土が落ちていて、二階も下も下駄ばきで掃除をした。襖等、丸く弓の様になっていた。近所の被害状況など見て歩いた。今の京橋会館の所に電話局があって、その五階の一角が落下して、そこにいた馬車と馬の下半身が土中に埋没していた。馬の両眼がガラリとびでていた。その屍臭がいつまでも残っていて閉口したものである。

津波はなかったが津波現象は少しあった。いつもの満潮時より一メートルも河川の水位が高くなり、不気味であった。火災のことは全然心配していなかった。まさか、焼けるなぞとは夢にも思わなかった。

ところが夕刻を過ぎた頃、芝神田方面の空は真赤に染まっていた。僅かに宮城の上空だけが黒く残っていたので、この様子では丸の内よりないと判断して宮城前の広場に避難し、家族全員、身体だけは事なきを得た。広場で一夜をあかし、二日目は麻布材木町の乗泉寺へ入れて貰った。本堂は倒れかかって、丸太十本位で支えがしてあった。脇の新築中の地下室へ、三十数世帯が雑然とはいった。

流 言 蜚 語

その夜から「るげんひご」におびやかされた。手に手にピストルを持った二十人の鮮人が、霞町（現西麻布）より坂を上ってくるから若い男は外に出て、お寺を守ってほしいと起されて、門の前に立った。手にしたものは棒一本である。これでは勝負にならない。折角、地震から命を守ったのに、ここで死ぬのかと真実そう思ったものである。悲壮なる覚悟である。

ところがいつ迄たっても何も来ない。何事も起きない……：……：……：この流言蜚語というので、まだはかにも沢山ある。例えば、井戸に毒薬が投げ込まれたとか、津波で下町は水漬けになっているとか、等々。

次に困った事は食糧である。お寺から田舎へ、買い出しに行つて得たものは玄米である。玄米のおにぎりなどは食べたものではない。空腹でも、半分も食べれば充分になってしまう。町を歩いて、処々に玄米のおにぎりサービスがあるが、焚きかたが悪いからグシャグシャでかた、とても喉を通らない。

流言蜚語についてもう一言。大震災から満六十年たった今日、昭和五十八年六月、某所に鮮人三百人の屍体が埋まっているという流言を信じ、その場所をブルトナーで一日がかりで掘り起こしたが、一片の骨も出なかったと新聞は報じている。

九月五日頃、店員も全部国元へ返して家族四人となり、山川作治郎宅へ寄食することになっ

た。山川氏妻ふでは母(まさ)の妹に当る。六日頃、京都から妻はつの父が尋ねてきてくれて、焼け跡を案内した。宮城前より神田に行く時、神田橋が焼け落ちていて、水道の鉄管(直径一メートルもある)の上を腹這いになって渡った。下を見ると黒コゲの死体がごろごろとあって不気味であった。

本所の被服省跡へ行った。ここでは十二万何千人かの焼死者の出た処である。何十人かを一諸に集めて、そのまわりに長さが一メートルもある薪をびっしり立て、その山が横に四十並んでいる。縦は何列か、見えないくらい並んでいた。石油をかけて一斉に火をつけたのであろう、空が煙りで真黒く、太陽は赤黒くまぶしくない。十二万人の火葬である。外に出て、石原の通りを吾孀橋の方へ向ったが息が息がいきない、止むを得ず両国橋を渡って浅草へ出た。名物の十二階が、七階を残して無様にも折れているのを見て吉原に向った。血の池と称する小さな池の脇に三十人位の死体が並んでいる。池の回りには鉄条網が張ってあって、そのどこを見ても髪の毛がまつわっていた。

翌日は日本橋の茅場町公園を見た。私の行った時は女性の死体は片付けられており、後に男性の死体だけ、二十体位残っていた。火に煽られて頭は丸坊主、体は膨張して大きな体になっていて、公園の土にはりついたようで悲惨なものであった。

併し、いつ迄こんなことをしてもいられない。麻布十番へ行って此の土地を十番銀座と名づけ、

小型新聞を発行して広告をとり、第一号を発行し続いて第二号の編集に取りかかった。その頃、山栄洋紙店の顔なじみの神田さんが来宅され、営業を始める様にすすめられた。折角、第二号も出せるのと思ったが本業には代えられない。早速得意先へ顔を出すと、先方は待っていた様に注文をくれた。但し印刷能力が乏しく下請さがしに苦心した。「見積ってほしい」といわれて、断るつもりで倍以上の値段をつけたが、それでも注文が来てしまう。下請には現金をふところ、前金、割り増し料金等でなれば強引に頼み込む状態だった。機械にかかり、印刷を始めた処で、次の仕事に掛り戻ってみるとよその印刷物を刷っているではないか。又、岐阜に帰った中村謹吾氏に原稿を送り地元で印刷して送ってもらったり、そんな繰返しで、その年も暮れた。忙しかったが住いも家具も正月用の着る物も全部新調して、かくしてまあまあ好況の裡にその年も終った。

翌十三年、木挽町現銀座二丁目に地上権を買

い、一棟三戸建のバラックを建て、一年目にやっと元の本拠地に帰った。小宮山さんもここに大きな石版ロール印刷機を入れて営業を始めた。共に苦労したものである。大正十四年区画整理、昭和通りの出現、住民は二割方の土地を提供して完成したものである。

商売の方は第二人も成人し、中村謹吾氏も岐阜より呼んで、工場も新しいロール印刷機三台、テキーン一台を入れて順調だった。併し次第に戦争が烈しくなり、召集による人手不足に困っていた頃、軍命令で機械と活字を提供して廃業することになった。更に、二丁目の十四番地の一画全部、八十世帯に強制疎開の命令が出た。遂に住む家までとられてしまった。

この軍命令に反対すれば、という意見は当時の日本の状態では不可能である。もし強いて実行すれば国賊となるので、仕方がなかった。もう一カ月早く終戦になれば家だけは助かったのである。私などが一番の戦争犠牲者であるとも思っている。

特集



突然の帰省

亡き老母のことが想い出として浮かんで来たので、そのまま書き出します。二十数年前、秋

「思い出すままに」

入船地区 **大沢忠義 78才**

(大沢印刷株式会社)

の信州路紅葉の色も一層濃くなる頃のことでした。信州新町の弟から電話で当社に勤めたい中学卒業の希望者がいるので面接に来てもらいたいとの連絡がありました。早々に仕度をして何

がしかの金を懐に急いで上野を発ち、長野駅に着いたのは、その日の午後三時頃で、直ぐタクシーを飛ばし新町の家に向いました。軽い夕食を摂りながら、就職希望者の話を聞き、さらに当社の条件や心構えなどを伝えて別れました。それから、約一時間かかって夜坂道を歩き老母の居る実家に着いたのは、夜も遅くなってからでした。

実家では、何んの通知もなく突然の訪問に驚いていましたが、就職希望者の面接のためと判って安心しました。当時は、人手も少なく仕事は忙しいとあって、田舎へ行くのも何か特別の用事がなくてはできないときでしたので、老母も大変喜んでくれました。老母が言うのに、「私は、思いもしなかった高齢まで生きることができた。この上は人々に迷惑をかけずに、できれば子供たちの仕事の暇なときに死にたい。」「若し、年末や正月であつたら、信州は寒いところ故、種々の行事が終るまで部屋の隅にでもおいて置き、一段落してから葬儀をしたらよい。」「などと書いていました。特に私に対しては、「お前は責任のある仕事をしているのだから暇な日も少ないだろう。仕事仕舞いはいつからか」と問われたので、会社の仕事は暮の二十八日までだが、今日なら休みも取って来たし、金も持って来たので一番都合が良い。』と書いて皆で大笑いしました。その日、いつになく、「今夜は泊って帰れ、仕事を一日位休んでも会社の人がやってくれるだろう。一生のお願いだから。』とたのまれて泊ることになりました。いつもなら

仕事のために早く帰るよう言うのが、この時は違っていました。きっと虫が知らせたのでしょう。後になって思ったものでした。その日、老母と九十一歳の一生の出来事についていろいろと話をしました。人生で、辛かったこと、悲しかったことは何かとの問いに対しては、「もの忘れがはげしく、悲しいこと、辛いこともあったが皆忘れてしまった。」と笑っていました。また、嬉しかったことについては、「お前が、村の農道の開通に協力してくれたことが、本心から嬉しかった。」と喜んで話をしていました。

ビタミン剤

私の生家は、となり部落から信州新町へ通る街道の際にあつて、現在、車が走る舗装道路ができるまでは、皆、背に荷物を背負って山道を登り、私の生家の庭先でひと休みして歩いて通つたのです。庭で休んでゆく隣部落の人たちに「お婆さんは良い息子を持ってよかったネ」と言われるのが一番嬉しかったようです。老母が話の終りに、「お前は、道普請には寄付してくれたが、^{お婆}には一銭もくれなかったね。」と云って皆を笑わせていました。

その日、私は当時新通貨として出まわっていた穴あきの五十円玉をビタミン剤のビンに入れて持って行ったので、老母に「これは総合ビタミン剤だよ。」と云って渡すと、「私はもう高齢だから薬はいらないが、それにしてもこの薬は重いね。」と蓋をとり中をのぞき、「この薬は年寄りには一番良く効く薬だ。」と喜んでおり

ました。このお金は、近所のお年寄りやその孫たちに分けてあげて、大いに喜んでもらったとのことです。

その年の暮、会社の仕事と大掃除を終え、忘年会をすませて杉並の自宅に帰ったのが八時頃で、ホツとした気分でお茶をのんでいると信州新町から電話があり、その夜、八時三十分老母が亡くなったとの知らせにびっくりしたと同時に、晩秋に訪問したときの事を思い出して驚いたものです。

親が子供の事を想う気持は、子供が還暦を迎えるような年になつても、乳飲み児であっても変わりなく、まことにありがたいものだ、つくづく思われ、亡き老母の思い出にふけたものでした。私も、今日まで毎日、朝は心の中で、祖先、亡き親に礼拝し、会社と一家の無事安全を祈っております。

人間万事塞翁が馬

亡き老母との会話に出て来た農道改修の話について書いてみますと、それまでの信州の田舎の山道は、雨が降れば降つたで、雪が降つたら降つたで、修理、改修が部落の人々の悩みの一つでした。子供の通学と、買物や農作物の運搬は、全部人力で行っていました。そこで、車の通れる道路を作るべく計画し、測量も済み、農地買収の段に入り、買収資金の寄付が行き詰ってしまいました。そこで、都会へ出ている人々への寄付依頼が行われることになり、私の兄と私の大病中の恩人の二人が上京して来ました。

兄はこの工事の会計を依頼されましたが、資金が出来ず困っているところであったので、私は、「二人で来たのだから二人分寄付いたしますしょう。」と申し入れの倍額の寄付をいたしました。

その半年後、当時、銀行で抽せん券付き定期を売り出していました。たまたま、大和屋洋紙店の現会長杉山さんから、お得意先の千葉銀行への定期預金を依頼され、預金させていただきました。その後、千葉銀行では、頭取と般若苑の女将との間に不正融資が発覚し、当時の新聞紙上をにぎわしましたが、とにかく一年後、満期になり全部解約とも思いましたが、紹介者もあることから、半分を引き出し、半額は宝く

特集



「古稀に思う」

築地地区 神田半三 70才

(永和堂株式会社)

私共の京橋支部のなかに、業界の先人に対し敬意を表する意から長寿者に感謝の集いが催されています。今年七月十二日にその行事を開催すると、私宛に通知が届き聊か驚いた次第です。自分はまだまだ長寿者などとは思ったことなどなかったからです。而し案内の該当事項に、大正二年七月以前の出生者と記入されているので年齢的には、該当者になっていたというわけです。

遂最近まで明治は遠くなりけりなどと云っ

じ付き預金にして残すことにしました。ところがそのうちの一枚が特賞に当たりました。田舎の農道建設資金に寄付した金が、半年後に五倍になって還って来たのですから驚きです。去る五十六年の「京橋の印刷」三十四号にも書きましたが、ここでも、「人間万事塞翁が馬」が生きているのです。

終わりにのぞみ、祖先、親の恩、また先輩、知人、友人の恩は機会あるごとに、何かにつけて、その万分之一でも恩返しができる人間でありたいと考え、その日一日の無事を感謝して床に入ることにしており、明朝もまた元気で出勤するのを楽しみにしている老人の毎日です。

ていたので、明治の出生者は年輩者なんだな、と思っていたのに、大正初期の出生者が長寿者の対照になるうとは、省みれば生を受けて長い年月自分をふりかえるひまとてなく、何時の間にか歳月は流れ去っていったようである。人生とは長いようでもあり、又短かいようにも感じられる。古来より日本では長寿の節目をそれぞれの言葉で寿はいいいます。

六十歳、還暦本卦がえりとも云い(えと)の干支に再びかえると云う

七十歳、古稀と云う又古来稀なりとは人生僅か五十年と云った時代のことであった
七十七歳、喜寿で喜の草書体でと書かれることから生れた
八十八歳、米寿で米の文字を分解している
九十歳、卒寿で卒と云う文字の異体で孕とよむ
九十九歳、白寿で百の文字から上の一をとると白の字になる

長寿とは長く健康で幸福でなければならぬと云うことである。今や日本は世界一の長寿国となり、定年退職後もまだまだ多くの方が健康を維持し、社会に復帰し貢献している現在です。我が業界に於ても又然りである。

私共の中央区内にも高齢者事業団が発足し、各企業より受託してそれぞれの仕事に精を出しています。元の技術をいかせる作業もあり、又各自の性質にあった作業などもあって、何れの仕事にも責任をもってなすとげて中々の好評を受けている様です。

今の先輩者にはそれなりに、一本筋金が入っているであろう、思えばその年代の出生者は総てのことに、忍従の道を歩まれ、その上粗食に甘んじて生きる時代でした。そんななかで、自然に体力も鍛えあげられてきたような気がします。それと共に、医学の進歩も加わっていることが大きな原因と申せましょう。この健康長寿は若年時代の基礎があればこそと、今改めて感謝せずにはおられません。

日本は大東亜戦の敗戦から立上り、機械科学が急速に発展して、現代は総てのものが機械に

たよらねばならなくなり、日常生活にも一日たりとも切り離せなくなりました。実に驚異的發展で、往時は現在の文化発展を誰れが予想したてでありましょう。

反面、機械化による弊害が生じ、激しい変化の様相をきたしています。我々の肉体も、公害等により弱体しつつある現状は誠に憂慮すべき事態であります。現在長寿国を誇る日本も、これからの将来を思うと、一抹の不案を禁じえませんが、健全な身体に健全な精神が宿ると云うこの言を深く銘記し、これからも健全な日本を築き上げて、私共業界も共に発展してゆくことを希って止みません。

特集



「赤いチョッキ」

八丁堀地区 榎本栄七郎 70才

(株式会社榎本印刷)

丁度十年前のことです。ある日突然、まさに突然です。先輩から届けられた包みを紐解くと中から真赤なチョッキが出てきたではありませんか。大袈裟な表現ではなく、足下より身が引きずりこまれる思いをしたのです。還暦という言葉は他人様のためにあるものだけにしか思っていないかった私が六十の還暦とは……しばし嘆きの思いでその真赤なチョッキを茫然と見やっております。

その真赤なチョッキは、前も後も心憎い程の赤ベタなのです。おまけに脇の下にチャックが

因に今中央区内には四十二の老人クラブがあり、入会員数は四八〇名の多きに達しており、これ等の老人には、中央区主催による老人大学講座を開き、著名の専門講師によって、希望者はそれぞれの講義を受け知識をひろめるとともに、一方軽いスポーツなども楽しんでいられる。町の老人クラブでは親睦の和を広めるとともに、奉仕活動や施設の入院老人の慰問などを行って大変喜ばれているときく。特に老人になって大切なことは、健康でなければならぬことは誰れでも望むところでありましょう。

健康こそ最大の宝であり、長寿者のために今後共精進を祈るものであります。

ついており、前にボタンなどは一切ないのです。まだボタンでもついていればその赤ベタだという印象が少くなるものを!!

不肖の後輩とは私のことを言うのでしよう。私は、そのチョッキを見ながら、そんなものを送って下さった先輩の顔を恨みがましい気持ちで思い起したものです。

しかし、そんな思い出から早や十年が過ぎ、古稀を迎え、組合から長寿の集の会にご招待をいただく年になりました。不思議なもので、十年前にはあれ程拒絶反応が強かったのに、今は

素直に、ご招待に出席のご返事が出せるようになったのです。おまけに、皮肉なもので、どこからも祝いの言葉もなければ一席設けて、という話もとんとありません。家内と息子夫婦に、「どうにか古稀まで息災に漕ぎつけた」と話しましたら、なんと、「元気で何よりおめでとさん、お祝いは喜寿の時に盛大にしてあげますからね」と、実にあっさりと言うのです。考えてみればあと七年を元気で頑張れということでしょうが、しかしこうもまわりの人々に淡々と下された先輩がなつかしくなってしまうあれ程気嫌いした赤いチョッキを取り出し、その節の詫びをしたりながめたり、さわったり……です。

草田男の句に

降る雪や明治は遠くなりけり
というのがあります、大正もいよいよ遠くなりけりという感否めません。私達の同期の方々は生命がいくつあっても足りないような時代を過ぎて来られたのであり、又明治生れの大先輩の方々は私達以上に辛酸辛苦を経て、現在の業界の基盤を築かれたことを忘れてはならないと思えます。

終りに「長寿者の集」にご招待をいただきましたことを厚くお礼申し上げ、先輩の皆様方の益々のご健康を希ってやみません。私も元気で美しく年を重ねて行きたいと思っております。

大正の生れよ今上陛下なりしかな

—— 昭和五十八年七月十二日

長寿者の集いの会を終りて——

京橋支部

長寿者ご芳名

△京橋地区▽

- 荒木城介(M.44.7.13) 荒木印刷
 - 尾島光子(M.43.1.17) 三徳印刷
 - 小宮山庄左衛門(M.32.5.22) 小宮山印刷
 - 田中潤(M.45.2.28) 精巧堂
 - 細田四郎(M.38.7.22) 金陽社印刷
 - 森市兵衛(M.35.11.25) モリイチ
- △銀座地区▽
- 永島冬二(M.40.8.7) 冬水印刷
 - 大橋忠治(M.45.2.20) 東銀座印刷出版
 - 小西大介(M.33.4.29) 小西商店印刷
 - 瀬戸昇之助(M.30.10.28) 昇寿堂
 - 中川静子(M.42.2.3) 中川印刷
 - 名塩正平(M.35.10.21) 東京屋
 - 山崎秋四郎(M.41.10.9) 東商印刷
- △新富地区▽
- 中村謹吾(M.36.4.25) 日本精版印刷
 - 相川貞義(M.34.3.10) 相川印刷
 - 高橋與作(M.27.6.30) 正進社印刷

△築地地区▽

花崎 実(M.45.2.17) 大東印刷工芸

加藤 秀(M.37.1.28) 東京開拓社

神田半三(T.1.9.30) 永和堂

佐藤 倫五(M.43.7.9) 佐藤印刷

春原 新松(M.40.1.21) 新すのは印刷

高橋 ハナ(M.44.6.1) 山之内印刷

堀江 千治(M.42.1.14) 秀江堂印刷

△入船地区▽

大沢 忠義(M.37.11.1) 大沢印刷

加瀬 文吉(M.41.3.26) 文寿堂印刷

鈴木 教生(M.29.12.17) 正栄堂印刷

須藤 梅吉(M.38.2.5) 岡田印刷

武井 東一郎(M.37.2.25) 雲舎

竹山 みつ(M.38.8.23) 竹山シーリング印刷

中村 賢逸郎(M.40.4.23) 明秀印刷

中安 義郎(M.34.4.22) 中安印刷

羽生 通成(M.35.11.24) 羽生印刷

山内 吉之丞(M.42.7.5) 光雄社印刷

△湊地区▽

飯塚 総左衛門(M.33.4.12) 光成社印刷

池宮 義久(M.37.10.31) 三進印刷

業界の繁栄とともに歩む

- 東印工組 斡旋融資取扱
- 東印工組 小口融資取扱
- 全印健保 指定金融機関
- 印刷厚生 年金基金払込取扱

文化産業信用組合 京橋支店

〒104 東京都中央区八丁堀4-13-1 ☎551-9625

すいせんのことば 組合関係一切をお願いしています。地域社会に密着した金融機関として大いに利用させてもらうつもりです。 新川地区 金山印刷株 金山耕二

△トウのビジネス封筒 名刺・カード・はがき

- 営業品目
- 事務用和洋封筒
 - 名刺用紙
 - 私製はがき
 - 招待状カード
 - マド付封筒
 - R O マド封筒
 - D M 用封筒

株式会社 △トウ エニパック

- 本社 東京都江東区永代1-2-1 電話(642)1141(代表)
- 配送センター 東京都江東区永代1-1-7 電話(643)3237(代表)
- 支店 城南(727)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851
- 栃木工場 栃木県下都賀郡野木町友沼 電話02805(5)2100(代表)

すいせんのことば 東印工組京橋支部ユーザーのニーズに即応できる堅実なメーカーだと思ひ推薦します。

八丁堀地区 東京真宏印刷株 久保田幸一郎

市川仁作 (M. 37. 7. 2) 三和印刷所
 片山多平 (M. 39. 6. 1) 片山印刷製本所
 河合孝吉 (M. 38. 2. 17) 倅欧印舎印刷所
 黒川孫太郎 (M. 34. 3. 17) 黒川印刷所
 齊藤泰次郎 (T. 2. 6. 18) 文行堂印刷
 島田忠三 (M. 34. 4. 30) 島田アサヒ印刷
 寺町佐六 (M. 37. 1. 31) 興文堂印刷
 中西豊次 (M. 41. 2. 29) 倅ミナト印刷社
 西山達雄 (M. 43. 12. 15) 西和印刷
 深沢太助 (M. 42. 11. 3) 倅新興社印刷所
 松川勝次郎 (M. 43. 12. 8) 松川印刷
 宮川竹蔵 (M. 36. 2. 1) 倅宮川印刷
 湯浅熊五郎 (M. 40. 7. 25) 倅宏洋社
 浅見米一 (M. 42. 11. 30) 三雄舎印刷
 榎本栄七郎 (T. 2. 3. 29) 倅榎本印刷所
 小倉武治 (T. 2. 6. 22) 倅相互美術印刷本社
 鎌田実 (M. 41. 12. 7) 倅田印刷
 坂根謙吉 (M. 39. 12. 6) 倅坂根商店
 佐藤富次郎 (M. 35. 3. 13) 倅明興社印刷所
 白橋龍夫 (M. 34. 8. 18) 倅白橋印刷所
 徳田錦泉 (M. 30. 7. 8) 倅錦光社印刷

八丁堀地区

原田文子 (T. 2. 1. 13) 内外印刷
 和田文二郎 (M. 44. 6. 7) 和田印刷所
 朝川真三 (M. 43. 10. 12) 倅朝川印刷社
 荒井政吉 (M. 33. 8. 25) 倅荒井美術
 飯塚松箔 (M. 36. 11. 15) 松栄印刷
 伊坂一夫 (M. 36. 11. 25) 伊坂美術印刷
 石川忠由 (M. 35. 1. 8) 倅一星社印刷所
 石渡善作 (M. 31. 3. 3) 精巧印刷
 板岡祐一 (M. 41. 9. 8) 明治印刷
 大沼善策 (M. 43. 6. 22) 倅大沼商店
 小野ナツ (M. 44. 6. 4) 倅政弘社
 小野アキエ (T. 1. 11. 15) 錦昌堂印刷
 片岡義郎 (T. 2. 3. 15) 共立印刷
 河井嘉一 (M. 42. 10. 28) 倅永代印刷所
 須賀幸太郎 (M. 41. 8. 1) 倅大成印刷社
 広瀬徳次 (M. 42. 2. 19) 朝日印刷
 吉富一臣 (M. 40. 7. 12) 倅吉富印刷所
 吉野栄 (M. 37. 5. 16) 倅吉野印刷所
 荒川佐吉 (M. 43. 1. 13) 誠文社印刷
 大道武敏 (M. 34. 8. 27) 八千代印刷

月島地区

新川地区

《輝き》と共に生まれた、最高級オフセットインキ

TOYO KING

Bright

色彩と印刷のあすを考える



東洋インキ

本社 / 東京都中央区京橋2-3-13 ☎03(272)5711

名は刺き
力はガ
封一
カド
レン筒
ダー

業界のトップメーカーで
全国で一番よく使われている!

TRADE (HT) MARK

ハート株式会社

東京東支店 135 東京都江東区冬木15番10号
電話(03) 641-1153番

東京西支店 166 東京都杉並区高円寺南2丁目37番4号
電話(03)316-2151代表 4番

東京南支店 140 東京都品川区東品川3丁目26番4号
電話(03)450-1911代表 4番

東京北支店 171 東京都豊島区妻町3丁目14番5号
電話(03) 959-3131(代表)

すいせんのことば 昨今はトータルスキナーの開発・実用化を計るなど、我業界発展に尽くしてくれており、その努力に敬意を表する。

新川地区 (株)久栄社印刷所 田島一弥

すいせんのことば ハート倅の営業さんは、なかなかの商売熱心です。特に若い沢野君は小まめに動き、品質も優れています。 湊地区 (株)三和印刷社 市川仁作

昭和58年度

中央区工団連定期総会行われる

6月14日(火)、中央区工業団体連合会の総会が中央会館で開催されました。司会をわが京橋支部長である児島副会長が務めて開会が宣せられ、常任理事として当支部の副支部長である土井、金山、三田村、室田、飯島の各氏も出席し始めました。

会長挨拶として当支部顧問の池宮会長が立られ、「昨年は、工団連20周年記念式典や工業文化展等大きな催しが行われ、特に工業文化展は約二万一千名の入場者を迎え大盛況でした。本年度は、恒例の従業員表彰も昨年20周年記念表彰にまとめられ、大きな催しはありませんが、工業文化展は来年秋の開催をめざし企画を練っているほか、秋には商工業従業員運動会や、この19・20日には、研修旅行があります。着実に進



めてゆきたいと思えます。」と述べられました。続いて議事に移り、製本京橋の牧野副会長より57年度の事業報告と、各種経営セミナーや新規就職者歓迎激励会等についての説明、及び椰野会計(月島工業会)の収支決算報告が、また、深沢商工課長よりは、工業文化展決算報告が行われ、今回、当区の支出は第一回目の倍以上になったとの説明があり、監査報告を受けて、一括承認されました。

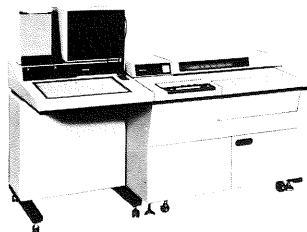
次に、58年度事業計画案・予算案がそれぞれ牧野副会長、椰野会計より説明され、承認されました。

来賓祝辞に入り、横関区長が先の区長選当選のお礼を述べられ、「厳しい経済情勢の中で20周年を迎えたが、役員の間結による人の和と会員の熱意が今日の発展の礎である。今後も情報・金融・経営改善・税務相談等全面的にバックアップしたい。各企業でも、創意工夫をして欲しい。」と結びました。

殿口区議会議長からは、「中央区では製造業・観光業・商業・消費者の作る・見る・売る・使うのバランスがうまくとれている。これからも区の発展のために頑張ってもらいたい。」と激励を受けました。そして村田区商連会長から祝辞を戴いて総会を終えました。

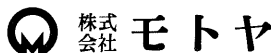
豊富な組版ソフトが付加価値を増大する!

電子編集組版機 WP-6000



コンピュータに豊富な組版ソフトを搭載し、今後の文字組版の主流を形成するモトヤ自信の最新鋭機です。

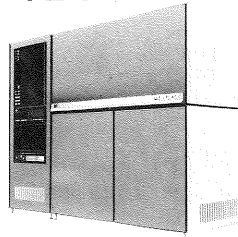
御社も; 業務の質の向上による付加価値の増大を達成できませんか。



大阪 大阪市南区南船場1-10-25 ☎(261)1931 ☎542
東京 東京都板橋区中丸町10 ☎(959)0123 ☎173
福岡 福岡市博多区古門戸野8-7 ☎(291)8605 ☎812
横浜 横浜名古屋・神戸・姫路・熊本

電算植字機

ビデオジャムシステム



すいせんのことば 何よりも嬉しいことは、印刷のことをよく知った上で、こちらの身になって相談にのってくれることです。特に、私共の会社にこまめに足を運んでくれる営業マンの堀内君は、なかなかの好人物で、熱意がひしひしと伝わってくる点など、各社の営業の学ぶべきところと言えるでしょう。

湊地区 株大成美術印刷所 工場長 関本明弘

京青会 5 月講演会から

景気八卦見

亥年には何がおきたのか

皆さんご存知のように今年は亥年です。それで私は今年の正月休みに過去の亥年を調べてみたのです。つまり亥年の特徴といったものを調べてみますと政治、経済、社会面で他の年に較べて大きな出来事が起きている事と自然現象面で天変地異というものが起きています。

12年前の亥年の昭和46年にどういいう事があつたかという貿易摩擦のはしりが、この年に起きています。つまり米国から日本は文句をつけられています。日本は安い繊維製品を米国に輸出するものだから米国の業者が困っている。日本はあまり安く繊維製品を輸出しないでくれ、米国でとめるわけにはいかないで日本が自主的に制限してくれと文句をつけています。ところが繊維業界は冗談ではない何をいくらで、どこに売ろうと勝手ではないかと言うのだが、通らなかつた、そこで日本と米国の政府が話合つて、日本としては沖繩を返して欲しかつたので日本政府は米国に対して一種の密約というか、米国向けの製品の輸出は遠慮致します。その代り沖繩を返してくれという談合、話合いが成立したのです。ですから自主的に繊維の輸出を規制して沖繩返還と取引きしたのですが、口のわ

NHK
解説員

中村泰治郎先生

るい人は、日本政府は糸を売って縄を買つたと言つたものでした。そしてこの年の天変地異としては、伊勢湾台風が中部地方を襲つた。そして甚大な被害をもたらしました。更にそれから12年前の亥年が昭和22年、この年は政治上大きな出来事がありました。日本国憲法が施行され衆議院選挙法が改正されて第一回の衆・参議院の選挙があつたのですが、衆議院の選挙で社会党が第一党になつた。それで片山内閣がスタートした。それ以来社会党内閣は出てません。この22年はカスリーン台風が東京中心に襲い特に江東地方を中心に大きな被害を出しました。

それから更に12年前の亥年昭和10年は美濃部達吉氏、あの都知事を務められた亮吉さんのお父さんですが、天皇機関説をとなえたのですが、これがけしからんと不敬罪で告発されました。これが原因で結局彼は貴族院をやめたのです。

この年は関東に風水害がありました。その12年前の大正12年が、かの有名な関東大震災の年です。政治、経済、行政等がズタズタになりました。当時東京の人口が二百万人ですの内、死者が九万人出たのですから大変な事で、東京がマヒしました。この年は社会的な面でも大きな事件が起きました。この関東大震災の折、朝鮮人が井戸に毒を入れたという、これはデマ

なのですがその事実無根がデマとなって拡がり朝鮮人をつかまえて虐殺した後、江戸川の土堤を掘って埋めた。これがきっかけで慶尚南道出身の朝鮮人計烈という男とその愛人の金子文子という女が大正天皇を暗殺する計画を立てたがこれは未然に発覚して成功しなかつた。つまり大正天皇暗殺未遂事件があつた。それからこの年に今の天皇の裕仁天皇が大正天皇の代理で、まだ皇太子だったので、帝国議会の開院式に病弱の父の名代で出席しようとして今の警視庁のある桜田門にきた時に難波大助というアナキスト（無政府主義者）に仕込銃で狙撃されたが当らなかつた。これが虎の門事件として有名な騒ぎになり、その時の内閣の山下権兵衛は引責総辞職した。そういう天皇と皇太子暗殺計画が起つた。

それでは今年は：

ちょっと話のたねに調べただけで、このように亥年に種々な事件が起つているが、じゃあ過去に起つたから今年も起きるといふ根拠は何もないのです。ただ次の事はいえると思います。経済現象というのはある程度サイクルがあつて動いている。ですから過去の亥年にこういふ事が起つたという事は、それから何年かたつた亥年にこれと同じような事が起きてもおかしくはない。経済の景気のサイクルと十二支の12年の周期がどこかで一致していればいい。

このように過去の亥年に起きた経済現象の変化は2つある。1つは昭和46年の、いざなぎ景

気が終った時が亥年で、もう一つは昭和34年は「岩戸景気」がスタートする年でした。

その経済変動と同様に天変地異の大地震、これは周期がある。要するに何故起きるのか、はっきりした定説はないのですけれど、今現在の定説としては日本列島では、太平洋のプレートやフィリピン側、アジア側からのプレートがもぐり込んでくる。そこで歪みが起きて何時かその歪みが極限に達すると大地震となつて起ころ。これはたしかに周期がある。何年かわかりませんが何かの原因が積り積りして極限に達して起ころ。そういうわけで、今年関東地方に大きな地震が起きてもおかしくはない。これは東大の地震学の先生がいつているのですが、東京を中心にして南関東に大きな地震の起きる周期は60年だといふ。そうすると今年から60年前が関東大震災の起きた大正12年の亥年、それから60年前のそのころ安政の大地震が起きている。正確にいいますと大正の大地震まで68年ですけれど大体60年前後の周期で起きている。

10年サイクルでみると

さて本題の方に入りまして十年一昔といいますが世の中は大体10年ごとに変わります。だからこれまでの年代を一九三〇年から10年毎に区切ってみますと、一九三〇年の昭和5年、14年迄は主として農村を中心として深刻な経済恐慌の不況の年でした。新卒者の就職先はなく、失業者が巷にあふれていました。当時は労働立法等はないので経営者は経営が思わしくなくなる

と、次から次へと従業員の手を切ってしまう。だから失業者は町にあふれました。農村では飯が喰えないというので娘を売りに出したりしました。

次に40年代昭和15年から24年の10年間はご承知のとおり戦争の暗い時代です。その次の50年代昭和25年、34年は敗戦の荒廃から立ち上った時です。この10年は復興の時といえます。次いで60年代昭和35年、44年がいわゆる高度経済成長、繁栄の時代でした。まことにこれはやること成すことすべてうまくゆきました。作るそばから物が売れる時代でした。石油が1ドル20セントか30セントの時代です。今29ドル。下ったとはいえ、29ドルもするのです。当時は1ドルで1バレル石油が買えたのでこれを我々は湯水の如く使って高度成長を行ったのです。このあとがよくなかった。70年代、昭和45、54年の10年間は様々な事が起きて世の中が激しく動いたのです。これは激動の時代でいやな時代でした。昭和48年第四次中東戦争勃発、株が三倍値上り、昭和54年はイランがパーレビ国王を追放し、革命状態になり石油の輸出がストップして石油ショック等が起きました。80年代、つまり、その後の昭和55年、64年迄の10年間は前の激動の10年の破綻をつくろう時代、或は調整の10年といってもいいでしょう。混沌の時代ですが、この10年の特徴はこうすれば国がよくなるとか、こうすれば企業が儲かるとか、理屈があまりみつからなくなっている。政治家のセリフではないが、一寸先は闇という事で、どうやってよいのか仲々見当が付きにくい時代である。一方では

くもりガラスから向うを見ているようで、何か向うにぼっとあるようなのだがそれが何だかはっきり読めない。ですから不確実な時代というわけです。不安定の10年なんです。次の90年代にこれだけは多分起きるであろうという事はいくつもある。第一は、この昭和65年、74年の90年代は恐らく日本の政治では保守党が有利な時代が続くでしょう。つまり野党が政権をとるということは恐らくないでしょう。第二に確実に起きることは高齢化社会、だんだんと人々の中の高齢者の占める比率が多くなる。第三に不確実の中で確実に起ころのは産業構造の変化、つまり産業の姿がこうなる。もうすでになつてきているのですが、蛇の形で例えるなら日本の明治、大正から昭和初期にかけての産業構造は、頭でっかちで胴の部分も普通、尻尾部分も普通、頭は第一次産業、胴は第二次産業、シッポは第三次産業です。昭和30年代の高度成長の時代はどうかといえ、第一次産業、農漁業等のウェイトが低くなつた。つまり頭の部分は普通の太さになつた。鉱工業等の第二次産業である胴回りが異常に太くなつた。工業、鉄鋼、造船等の装置産業が盛んになつた。シッポはそうでもない。今はどうなつているかといえば、異常に太かつたこの第二次産業の胴回りがひっこんだのです。頭も普通の太さ、そしてその代りに、今度はシッポの第三次産業の部分がふくらんだのです。経済のウェイトが商業、金融保険、官公庁等のサービス業に移つてきたのです。就業人口からみてもこの第三次産業は今一番多いので

す。しかもこのシッポの部分は大企業は少く、中小企業が多いのです。胴の部分は比較的大手が多い。ですから80年代は中小企業の時代だという感じがしないでもない。ただ胴部分の工業の中でも先端産業、ハイテクノロジー工業等の良いものは依然として伸びていくでしょう。悪いのはいわゆる装置産業といわれる鉄鋼等です。

景気を引っぱる4つのエンジン

さて経済の景気動向の話に移ります。四発のエンジンを持つ飛行機に例えますと景気を引っぱる第一のエンジンは個人消費、つまり一億の国民が個々に消費するもの、第二エンジンは設備投資、生産施設等への投資です。第三エンジンは輸出です。外国へ物を売ってかせぐ。第四エンジンは財政。

国が種々な面で金を使ってくれる事です。昭和35年〜45年の高度成長時は第一、第二、第三の三つのエンジンがフル回転をしていたので第四エンジンは出番がなくて、あまり動かなかった。ところが昭和55、56年頃オイルショックの後で国民の皆さんがサイフのひもを締めて第一エンジンは回らなく回転数がおちてしまった。設備投資の第二エンジンも景気がわるいので採算がとれるかどうか心配でやっぱり回転数が悪くなった。第三エンジンの輸出はこれだけばかりよく回ってました。第四エンジンの財政はどうかという不況なので本来はフル回転させたいのですが、ない袖は振れぬと財源難の赤字財政では公共投資等あまりできず、第四エンジン

も回転数はおちた。

では今現在の昭和58年はどうかというと第一エンジンの個人消費は少し回転数が出はじめた。最近の統計を見ますと少し買物をはじめました。オイルショック以来じっと我慢していたのでそろそろもう耐用年数がきて買い換えの時期にきているのです。第二エンジンの設備投資、これはやっぱりだめです。大企業もやらない、特に中小企業はやらないので回転数が上らない。第三エンジンの輸出はこれまでは順調だったが外国から文句をつけられた。あまり安くてよい日本製品が入ってきたのは困ると苦情が出て第三エンジンは回転数が少し落ちてきた。第四エンジンは依然として何かやりたいのだけど元手がないというので動けないが、でも第三エンジンが一番良い。今現在はこういう状況です。では今年後半はどうなるかというと、問題は第三エンジンが最近欧米の景気が徐々に回復しはじめたので欧米の景気がよくなれば、日本が輸出してもあまり文句はこないのです。だから第三エンジンはこれから少し回転数があがってくるのではないかと思えます。第二エンジンの設備投資もやっぱりまだやらないでしょう。やるとしてももっと後になる。以前として回転数はおちたままでしょう。問題は第四エンジンですが、今年後半から回転数を上げてくるのではないのでしょうか。

増税？ 減税？

最近政府は「増税なき財政再建」の「増税な

き」という言葉を言わなくなった。政府としては景気が悪い状態で選挙をやれば不利なので、何とかして選挙前に景気に少し色をつけなければならぬ。このために政府は恐らく赤字公債を発行する等して公共事業の追加発注を行うとか、勤労者向けの所得税減税を行うか、投資減税をするとか、ある程度無理して行うと思いません。

日銀は円の相場をみながら公定歩合を引き下げる、企業の金利負担をやわらげると思っています。財政金融面から景気を支えるわけです。そこで今年の景気空模様は前半小雨、後半はうまくいけば、薄日という程度ではないでしょうか。だから実質成長率で3%、実質というのは物価上昇率を差し引いた正味の上昇率の事です。名目成長率は6%、名目とは時価で計算した国民総生産の総額です。皆さんのご商売に関係するのは実質成長率ではない。実質成長率はサラリーマンにとって切実な数字なのです。自分のもらった給料が物価の値上りを差し引いてどの位残るかが勤労者にとって重要な事です。商売をしている人は実質でなく名目で商売している。つまり時価で商売している。だから名目での位伸びるかという事が必要なのです。それが今年6%程度だろうという事です。もっと平たくいえば今年1年間の売上げは前年に比べて6%程度しか伸びないという事です。これも全業種の平均です。業種、企業によってここが出ているのは当たり前です。この程度なので、景気回復は実感としてはあまり出てこないでしょう。

高度成長時代は実質で10%、名目で大体20%です。こういう事で、増税なき再建はできなくなつた。従つて政府は今年は何をやるにも先立つものがなくてはできないので増税に踏み切るでしょう。

間接税は事業者が負担するのではなくて大衆が負担するのです。酒税等もそうです。酒税は醸造者が蔵出しする時に地元の税務署に先払いするもので醸造元が自分で負担するのではなくてその分を作つたビールや日本酒、ウイスキーの価格に上のせして、問屋、小売店とだんだん下へそのつけを回していくわけで最終的には最後に買った客が全部それをひつかぶるというものです。今や欧州でやっているやり方を日本に持つてこようというもので、それは附加価値税というもので、この名前ではなじみないのでやる時は他の名前にするでしょう。一般消費税は以前持ち出して反対が強くて止めたので今度では使わないで別の、例えば売上税とかになるでしょう。一般消費税はやらないと国会で決議しているので、できない看板をぬりかえてやるわけです。

欧州の附加価値税を説明しますとメーカーが一個100円の商品売るとすれば、メーカーは問屋に送り状を送ります。一種の請求書です。この場合欧州の附加価値税の税金は10%正味は100円で110円にして問屋に卸す。そこで問屋はメーカーに110円払う。その10円を税務署にメーカーは払う、一方問屋は110円で仕入れたものに荒利をのせて200円で売る場合、小売店に200円+10%の20円をのせて220円の送り状

を送る。そこで小売店は200円+20円を払う。だが問屋はメーカーに払つた10円を回収して残り10円だけを税務署に払う。小売店は200円で買ったものに荒利をのせて、一個400円で売るとします。その時の正札は400円に10%の正札40円をうけてお客にうる。小売店は自分が負担した20円は回収して、20円だけ税務署に払う。合計40円が税務署から国のふところに入るわけです。それが負担するかといえばメーカーでも問屋でも小売店でもなく消費者なのです。全額ひつかぶるわけです。なぜ附加価値税といふかといふは、メーカーから問屋へ渡る時100円が200円になり価値が100円分だけ増えるので附加価値税というのです。増えた分に税金がかかるので附加価値税というのです。ただ日本ではこれをやるとなると百家争鳴で大変でしょうね。野党は反対するのははっきりしている。

間接税は一律にかかる。所得税は直接税は稼ぎのある人からがばり稼ぎのない人からは取らないという累進税率になっているので比較的公平ですが、間接税は一律にかかるので、松下幸之助であろうと生活保護を受けている人であろうと区別しないので大衆課税、弱いものいじめだといふのです。又いわゆるトーゴーサンピンとかクロヨンとか税の課税が不公平で取るべき所から取っていない、もしやるならこれらの取るべき所から取つた上でやるべきだといふわけです。それから東商、日商、全国商工会連や中小企業を代表する団体は反対するのは、このように理論どおりに税金を下に転嫁して消費者

に転嫁できればよいが転嫁できない場合がおきてこないか、例えば零細な小売店とかが百貨店やスーパーと競争する時に430円で売つたら10円分は小売商の負担となつてしまふ。それにこの税を実施する時は記帳義務が法律的に課せられる。大福帳ではだめなのです。送り状を保管して全てこれに基いて正確に記帳しなければならぬ。これが困るのです。特に中小企業は口には出さないが、これをやられると節税のうまみがなくなつてしまふ。つまり税務署に荒利がつうつうになつてしまふ。消費者団体も反対するでしょうし、又400円のを40円も値上げするのでインフレの要因になるので絶対のめませんと、主婦連や地婦連を初め反対しています。私事で恐縮ですが私の家内も主婦連の副会長をやつてまして、何の値上げにも反対しておしゃもじをかつかつており、私が世話になつてゐるNHKの聴取料にも反対しているので、私はどちらの味方をすればよいのか困つております。それはさておき、又40円の税金分を正直につけてくれればよいのですが、中には悪徳業者がいて450円、460円と便乗値上げをされる恐れがあるといふわけで増税できない時は赤字公債を出して帳面ツラを合わせるしかないわけで、いずれにしても困つた問題です。やはり行政改革を徹底して行い、国のかかりを少なくする事が一番の方法でしょう。曰く、入るをもつて出ずるを制す。です。

紹介

製本は 地元 京橋で・・・(その2)

前号に掲載いたしました「製本は地元京橋で・・・」はいかがでしたでしょうか。編集部では、こういって形で今後も印刷関連の業界についての特集を組んでゆきたいと、考えています。今回は前号の記事収集の際、各製本会社から寄せられた短い広告文を掲載いたします。各社の特色などを参考にして御利用ください。

- ・侷丸中製本所 湊一丁目 ☎551 五〇五一
アイデアを活かす、皆様の総合製本工場 各種
端物製本 ニツ折ホットメルトン 頁物製本
- ・侷正文社製本所 湊一丁目 ☎551 九七三七
仮製・雑誌・合体・バインダーあり・折・T合
貼込自家工場・数量問はず 電次第すぐ参上
- ・侷村松製本所 湊一丁目 ☎551 三〇一六
御相談下さい カタログの折と中綴 専門
- ・納期厳守 断截機二台 折機三台 自動中綴機
- ・宇佐見紙工所 湊二丁目 ☎551 四五二〇
端物製本、パンフレット折、
断ち、折、穴明け・シン製本、なんでも可
- ・岸田製本紙工侷 湊二十十一 ☎551 四三五一
書籍製本専門工場です。一般上製本 年史 社
史 自費出版物等数量問はず 天金も得意です
- ・侷小春製本箔押所 湊三丁目 ☎551 九〇六五
当社はハクオシの会社です。書籍カタログの表
紙パッケージ等です。数量不問です 納期正確
- ・大同紙工品工業侷 湊三丁目 ☎551 四三二四
『正確な仕上、納期を守る』目標に頑張っている
二代目です。小さな事務用製本屋です。
- ・長尾製本所 湊三丁目 ☎551 三五六七
事務用品 納期 絶 体 厳 守 本 其 の 他
- ・侷中村一精堂 湊三丁目 ☎551 八八五八
事務用品一般その他印刷製本します。一度是非
お電話を!!
- ・いわき紙工 湊三丁目 ☎553 二六六九
堅実な製本 納期の厳守 事務用品から仮製雑
誌和本諸本迄の総合製本数量に関係なく乞電話
- ・侷斎藤紙工 湊三丁目 ☎551 五九七四
断截 中綴得意 断截機三 鞍掛五 折直管
折機五
- ・侷城所紙工 湊三丁目 ☎552 一〇三七代
特殊能書折 中綴 截 折 電次第参上引取り
断截機三台 折機四台 ホークリフト有

爽やかにあざやかに

気品ある白……



CCP ユニ
ホワイト

十條製紙


本社
東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL (03)211-7311 千100

すいせんのことば 十條製紙の製品は安定性・作業適性
など優れており安心して愛用している。

新川地区 三好印刷(株) 三好 徹

和・欧文 活字
材料 / テープ・メタルベース 他
インキ / 阪田 大日本 東京 東洋 各

和・欧文 各パンフレットあります



株式会社 京橋岩田母型

551 - 1380・2830・(店頭)2827

すいせんのことば 平版部門諸材料の取扱いも一層強化
され、又新製品開発は京橋岩田母型の看板です。御利用
をおすすめします。 入船地区 光信印刷(株) 武村健司

- ・中條製本工場 入船二丁目 552 八七六一一
書籍 仮製 折丁合より上製ライン バイנד
ー有 工場倉庫延二三〇坪 製品納期確実
- ・広田製本所 入船二丁目 551 〇六〇九
カタログ 伝票 中綴 折 断截機 折機械
中綴機械あり。
- ・有染野製本所 入船二丁目 551 二五一八
上製本専門です、なんなりとご相談して下さい
電話をお待ち致します。
- ・有共正社島佐製本所 入船二 551 〇一四二
ミユラー製のバインダーで、きれいな無線綴を
二、三〇〇冊の小部数の物もお受け致します。
- ・生稲紙工業株 入船二丁目 551 三五三〇
紙断 打抜加工 シール その他製本一般
断截機三台 打抜二台 シール二台 他八台
- ・有徳製本所 入船二丁目 551 二四六五
学校卒業アルバム、手帳、事務用品、その他
承ります。いつでも電話を下さい。
- ・松喜製本株 入船三丁目 552 四六八一
中トジ 無線トジ 製本のことなら何でもお受
けいたします。ホークもそなえてあります。
- ・小松製作所 八丁堀二丁目 551 三五三四
書籍 雑誌 伝票 写真真 諸帳簿 製本一般
何でも承ります。気軽にお電話下さい。
- ・有栗原製本所 八丁堀三丁目 551 四六三九
仮製 教科書 中トジ六駒 クロース巻 三方
截 ホークあり 多量司 倉庫有り
- ・有豊田野線印刷所 八丁堀三丁目 551 五九六五
野線印刷及事務用製本 特に伝票類切取ミシン
帳簿類も仕上まで致します
- ・有博伸社 新川二丁目十一の五 551 四五八六
貴重品伝票、面倒な伝票、人の嫌がる仕事、ご
相談下さい、バスター、シュリンクパック致します
- ・有川崎製本所 新川二丁目 551 一六五五
一般断截 伝票類 事務用製本の 一一〇番
お問合せ 歓迎 京橋の印刷物は地元で製本！
- ・有谷島製本所 新川二丁目 551 五二一〇代
上製、並製 バインダーあります 折丁合直営
です
- ・有京益社 相沢製本 新川 553 三六三一
最終工程は、東印工組印刷営業士にお任せ、
少量用バインダー、カレンダー金具付も可。
- ・有安藤帳簿印刷 銀座一丁目 551 七二二九
帳簿専門 官庁 一般会社 部数問わず
開業六十年 帳簿専門現在に致る 納期厳守
- ・有岡本製本所 新富一 551 一八六一
始祖利七、二代 次郎、三代 明、四代 米男
応需而順貴意以誠心誠意当事也。
- ・有山本製本 工場 江東福住 641 二五四九
ミシン綴の製本は 是非御用命下さい
銀行通帳 ダイヤリー アドレス等 メモ帳
- ・有文栄社製本所 江東区冬木 641 〇三二四
無線綴・中綴製本(折3丁合バインダ中綴2三
方断截2ホークリフト)一貫作業 社員15名
- ・有王冠印刷製本社 墨田区菊川 634 〇二二六
仮製、雑誌、中綴等カタログ、パンフレット製
本 御一報次第参上申し上げます。担当安部

対話へのかけ橋

1枚の封筒にも
大きな使命が
かせられています。



山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151代
工場 〒132 東京都江戸川区西端江4-21 電話(652)7721代

すいせんのことば 山口封筒さんは納期正確、トップの指導が良く営業部社員は非常に仕事熱心で責任感が強い。

八丁堀地区 有田村印刷所 三田村桂太郎

ちよろぎ (第2回)

軽子橋

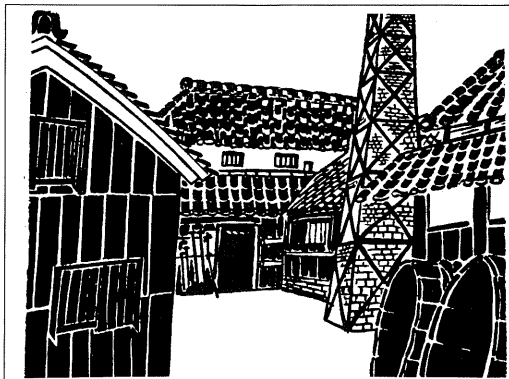
夕やくる築地の川の軽子橋を印絆纏着て渡りゆく 松倉米吉

大正六年晩春の作と言ふこの歌は格別秀歌ではないが、心に滲みる歌である。もと軽子橋のあつた辺りを通るたびに私はこの歌と作者を思ひ出す。この頃、米吉は他に職を得られぬまま、遠縁にあたる築地の西洋洗濯店に住み込みで奉公しながら不如意な生活を送つてゐたらしい。当時、彼の実家は本所にあり、恩師古泉千樫^{*}や行路詩社の歌友たちも多くは江東の住人であつて、さなきだに孤独と不遇をかこつてゐたのであらう。この歌も印絆纏をまつて、箱車を曳きながら洗濯物のご用聞きに歩いての途上吟である。年少の頃から金属関係の工場に勤めて、精勤で何回も表彰を受けたと言ふ勤勉な彼なのに、この歌には何か劣等感と焦燥が漂つてゐて痛々しい。既にこの時分に死病となつた肺結核にとりつかれてゐたのであらう。新富座の横を流れる築地川が入舟町五丁目の角で屈曲するところ、その辺りに架つてゐた木橋が軽子橋であつた。

この橋の名は御府内備考にも見える古い橋だ。築地川は現在大部分高速度路に転用されてゐる。軽子橋は震災では焼け残つたが、間もなく廃橋となつた。もと橋のあつた辺りも遠からず高速度路になるらしく、目下盛んに工事中である。この辺りはその当時、明石町居留地の西北隅にあたり、異人館相手の商店が軒を並べてゐたものだ。軽子橋の袂には桜

白川 晃

^{*}古泉千樫 一八八六一—一九二七 (明治一九一—昭和二) 歌人。千葉県安房郡吉尾村の生まれ。十三、四歳の頃から歌作を始め、一九〇四年(明治三七)伊藤左千夫の門に入る。一九〇八年上京、帝国水難救済会に入る。「アララギ」創刊に参加。一九二四年(大正十三)『日光』創刊に参加。この年発病、翌年自選歌集『川のはとり』を刊行、一九二六年青垣会を起す。主著『竹里歌話』『竹の里歌全集』『長塚節選集』の編著のほか、遺稿歌集『屋上の土』『青牛集』など。



割烹 ひさまつ

鍋料理 } 御宴会料理
お刺身 } お一人様 ¥3,500より
煮物 } 小人数から20人位まで
焼物 } 受け承っております。
酢の物 }

新富 1—10—11
TEL (551) 2 9 8 5 (京橋税務所うら)

すいせんのことば 印刷会館のすぐ近くで、脱サラのマスターがいる。まだ年若い、心配りが気持ち良いお店。所望すれば、加山雄三によく似た声で、ギター片手に歌つてくれるが、一番良いのはギターで我々オンチに上手に伴奏をしてくれるところ。是非一度のぞいてみてはいかが？

井と言ふ古い西洋菓子屋があり、それに並んで西洋洗濯屋、西洋八百屋、BUTCHERと横文字の看板をかけてゐた肉屋、牛乳屋、それに銀座の食料品店として有名だった亀屋鶴五郎の大きな出店もあつて、異国情緒の濃い場所であつた。この歌が作られてから二年後、大正八年十一月二十六日に、同じ川筋に沿つた東京市立施療病院の一室で米吉は貧窮と病苦の裡に短い生涯を閉じることになる。それを思ひ合せると、この歌には作者の深い吐息が切実に感じられてならない。この歌の作られた年の十月一日には帝都は大暴風雨に見舞はれ、高潮の襲来で、築地、鉄砲洲付近一帯は床上五寸位の浸水に驚かされた。もうその頃には米吉は新たに適職を得て、本所に移つてゐたのだが、水害は勿論免れなかつたことであらう。これ以後二年の間に、彼は只一人の血縁である母を失ひ、二十五年の生涯に只一人の愛人を得て、酷薄な境遇に耐へながら不易の歌教首を遺して逝つて了ふのだつた。

灯をともしマツチたづねていやせかる口に血しほは満ちてせかる

彼を深く愛惜した古泉千樫は彼のために墓標に筆をふるつた。「歌人松倉米吉墓」と。その墓石は今も浅草北清島町西光寺にある。貧しさを詠ひ上げて、彼は啄木に対比されるが、彼の歌にはエピソードはなほない。それは彼の魂の純度を示すものだと、私などには思はれる。西光寺は偶然、軽子橋に近いR中学で机を並べた私の学友Fの生家である。そのFも米吉と同病で終戦の年の五月にまだ壮年で生を了へた。

山 桜 製 品



株式会社 山 桜

本社 東京都中央区築地3-2-9
 電話 542-8511 (大代)
 工場 東京都昭島市大神町1046番地
 支店 神田・中野・五反田・浅草・板橋・亀有
 墨田・蒲田・横浜・千葉・大阪

すいせんのことば 商品はグッドで値段はピタット。営業マンはスラット会社はハイルク。だから、使いたくなる山桜製品。 新富地区 神林印刷株 神林克明

プロセスインキの最高峰

New Champion

Super Apex



大日本インキ化学

すいせんのことば New Apex-Gは、使い易さ、鮮やかな色相、すばらしい光沢の三拍子揃ったインキです。

新川地区 伊坂美術印刷株 工場長 辻 景虎

地区だより

新富地区

能登プロセス(株)
見学会

今回の地区会は、会社見学会で、それも平素何かとご無理をお願いしている製版関係の会社とのこと、今迄この様な機会に恵まれなかったので当日を楽しみにしていました。

六月十五日(水)午後2時、例によって大東印刷(前)に集合、会員提供の車に分乗し総勢14名、今日の見学先である能登プロセス(株)(本社、中央区日本橋蛸殻町)へ向いました。

沢田社長始め役員、社員の方々の出迎えを受け、本社応接室で沢田社長から会社の経歴、設備の概要等の説明があり、特に近日中に最新鋭のSG-888型を設置する予定と聞き、合理化競走の激しい業界に於て常に将来に向けて設備の更新を考える会社の経営姿勢が感じられました。今日の参加会員の中には活版関係の方も居られるし、平版関係の会員からの要望もあり、鈴木取締役業務部長より丁寧の説明していただき、特にミスを防ぐ方法等で特殊な製版技術には感心しました。

引き続き二班に分かれて工場見学です。本社の建物から徒歩5分位で工場(箱崎町)に到着。私達は、鈴木部長の案内で各作業場を見学、コンピュータを駆使した最新設備の機械が有機的に作動し、それらを操作している技術者達の自信に満ちた顔は、社員教育にも力を入れて居



湊地区

東京真宏印刷(株)
新社屋竣工

昨年十月より湊一ノ七ノ四に新社屋を建設中であつた東京真宏印刷(旧八丁堀地区・久保田眞一郎社長)の新社屋が6月中旬竣工となり同月末に移転を完了した。

られる経営姿勢が感じられました。上の階では、レイアウトに従つて、絵柄のトリミングや、修正等の作業場があり、原稿の受注から納品までの一貫した多色写真製版の専門メーカーの工場を見学し本当に良い勉強になりました。

見学後近くの中華飯店で懇親会を開き、今日の研修会が有意義な会であり、次回も関連業界の研修企画を幹事さんをお願いし散会しました。オカムラ印刷(株) 宮入茂三郎

小さな物から・大きな物まで
いつでも・どこへでも


運 送 保 管
送 包 送 管

渥美運輸株式会社

東京都中央区入船2丁目9番3号
☎(552) 3771(代表)

家庭的なムード!!
ご宴会、ご商談にご利用下さい

割 烹 久 通



中央区築地1-5-5
(京橋図書館ならび)
☎541-6878
542-7593

すいせんのことば 親切で小回りがきく、注意のいきとどいた運送会社として利用しています。

新富地区 日本精版印刷(株) 中村憲吉

すいせんのことば “かし”の地元。新鮮な料理を手頃な予算で……。気楽にどうぞ。

新富地区 日本精版印刷(株) 中村憲吉

同社は先代の真吉氏が昭和13年西八丁堀で真宏社印刷所として始められ、第二次大戦の企業整備にも残り、その後は、樹脂版・CTS等に取り組み、また西独製平版印刷機の導入など業界の近代化、合理化路線に沿って発展され、現在に至っている。

稲荷橋の傍に建った新社屋は七階建の白亜の建物で、遠くからでも外壁につけられた東京真宏印刷機の文字が目立っている。同社は今年丁度創業45周年にあたり、これを期に新社章も制定し、昭和54年に発足した真宏企画も順調に運営されており今後の発展が期待されている。

京青会だより

写研埼玉工場見学会

京青会6月度定例会は、7月8日(金)、写研の営業の立花さんのご好意により、和光市にある写研埼玉工場を見学させて頂く事になりました。工場の作業時間ということなので、金曜日の午後ということになりましたが、京青会々員及び京橋支店部会員合せて二十八名の参加がありました。午後一時に印刷会館前を出発し、途中小雨が降りましたが、大型のデラックスバスに揺られて一時間半、工場に着く頃にはすっかり止まりました。

工場は広敷地に近代的な建物が並び、到着しすぐに2階の会議室で、写研の山口部長さんらの歓迎のご挨拶があり、その後田端課長さん

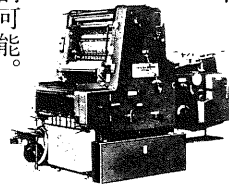
らの案内で、私達は3班に別れて見学しました。特に写研が誇る各種のCRT電算写植機等の組立現場では入室に際し、白衣を着用しほこり等の侵入に対する電子部品の保護に気を使っています。さらに後で見た、文字版の最終の検査室では、一般の人は中に入れずに徹底した気密室での作業を行っていました。サブトンAPSM5Sの組処理コンピュータ内蔵出版印刷用のペーリアップ出力機では、表組や数式など高度な組処理を含めて、トンボ、ノンブル、柱とともに頁アップ出力をすること、学参物や書籍雑誌などの出版用として偉力を発揮するのではないかと思えます。入力・校正機も仮名漢字変換方式とフルキー式の併用のKSW101やペンタッチ式のTSW401等の機械も実際に動かして説明して下さいまして、文字配列も手動写植機と同じ「一寸の巾」の物と和文タイプの「イロハ配列」があり選択出来る様になっています。又手動機の方では始めて文字が画面表示できるディスプレイを持つPAVOKV等がこれからの主役になりそうです。文字版の開発室では、この様に近代的な高水準の工場内でも手作業が主体で、一つの新しい書体を開発するにも多大の時間と費用が掛ることが解りました。最後に会議室に戻り質疑応答の後、工場を後にしました。

今回の見学会は、今後我々が、文字の処理をいかにすべきかに多大の教訓を与えたことになると考えさせられました。

(有)齊藤正文堂 齊藤 隆夫

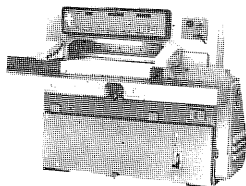
ハイデル情報

ハイデル単色Mオフセット機
菊半裁判 四八〇×六五〇%
最高速度八千
毎時。ナン
バリング、
刷り込み、
ミシン目
入れ、二分割可能。



ポラー情報

ポラー九二EMC断裁機。
最大断裁幅九二cm
マイクログ
ンピュータ
搭載の新高
速断裁機。
積紙高±cm
重量二八〇kg



印刷機械貿易株式会社

香里本社 大阪府寝屋川市豊里町二一四
電話〇七二〇・三二一・〇四四一
東京事業部 東京都品川区南大井三二一四
電話〇三二七六二一四一四一

すいせんのことば 機械の材質がよいせいか故障がないので予定通り作業できて助かります。それにシリンダーが大きいので刷上りのよいのにも満足しています。約束した時間には必ず来てくれるのも、サービスが行き届いているからでしょう。

入舟地区 永井印刷工業(株) 小倉利明

支部の動き

5月18日、部長・監査、地区長会、於支部

一、総代改選結果について、京橋支部総代数は支部長を含む32名。

二、東京都印刷産業政治連盟について。

％現在、東印工組五三八社、一、〇八三名。内京橋支部四九社、一三〇口加入。

三、支部行事予定を検討。

四、井上計寄附、顧問相談役参与他支部合計八八万円。

5月27日、部長・監査・地区長会、於稲取赤尾ホテル、当面の支部行事を打合せ。

6月9日、東京都火災共済代理所会議、東印工組厚生委員会、於熱海伊豆山ホテル水葉亭。58年3月末現在、東印工組契約額四三一億円、件数三、八〇〇件で東京の各種協同組合三九一団体中一位。火災事故保険金の翌日支払いや低額掛金等、中小企業者にとって一般損保より優利な制度となっている。
(加入希望者は⁵⁴²〇二七一番、東京都火災共済協同組合迄。)

6月14日、中央区工団連58年度総会、於中央会館、事業報告、計画等を承認。

6月15日、部長・監査・地区長会、於支部。

一、総代会結果報告について。

二、共助制度の改正、共助届書の提出。

三、支部行事「長寿者の集い」7月12日、

世界コミュニケーション年記念講演会、講師別所毅彦氏

6月16日、港区産業文化展、於都立産業貿易センター。児玉支部長出席。

6月19日、20日、中央区工団連一泊研修旅行、於茨城県袋田温泉ホテル、池宮会長、児玉

支部長他支部員及従業員54名が参加、翌日日産自動車栃木工場を見学。

支部組合員の異動

脱退組合員(58年6月)

㈱信盛社印刷所、武井康次氏(入船地区)

お悔み申し上げます

▼6月1日、湊地区、㈱宏洋社社長御令聞湯浅一代様が御逝去されました。

▼6月20日、新川地区、秀文社印刷社社長佐野敏夫殿が御逝去されました。

以上二件慎んで御冥福をお祈り致します。

住所変更

▼(㈱山本印刷所、山本昭三殿(旧八丁堀地区)、湊2-11-1、に移転

▼(東京真宏印刷、久保田幸一郎殿(旧八丁堀地区)湊1-7-4、に移転

▼(八千代印刷、石曾根啓悦殿、改築のため仮事務所、日本橋箱崎町6-9、⁶³⁹四八六五。

▼(㈱国際印刷、河野秀衛殿、改築のため、59年9月迄仮事務所、日本橋箱崎町四一八、⁶⁶³四五五。

告知板

▼五月頃各支部員へ一部配布しました営業マンハンドブックが余分にあります。ご希望の方は支部事務局宛電話下さい一部二五〇円です。
▼共助制度届書の未提出の方は早急に支部又は地区長さんへお届け下さい。

編集後記

◇昨年続きの長梅雨、冷夏。衣料をはじめ影響の出ている業種も多いでしょう。

◇しかし他人のことを云うまでもなく、印刷業界もいまや不況の真只中、加えてニューメディア時代の到来やらエレクトロニクス化やらに振り廻され、前途は誠に厳しい、というしかありません。

◇それに比べてか、本部では9月から「不況克服と適正利潤確保のための総点検運動」を打ち出すそうです。社内の総てを見直して、利益を内側から捻り出すということでしょうか。

◇「長寿者の集い」に併せて5人の先達の方々に寄稿していただきました。懐しさとともに、印刷界の今日を築いてこられたご努力に、あらためて頭の下る思いです。

◇「京橋の印刷」も通巻49号、私どもが引継いでからも1年余が経ちました。少しでも皆様方に読んでいただき、お役に立てる支部報を、と願ってアンケートを挿入しました。どうぞ忌憚のないご意見を是非おきかせ下さい。(S)